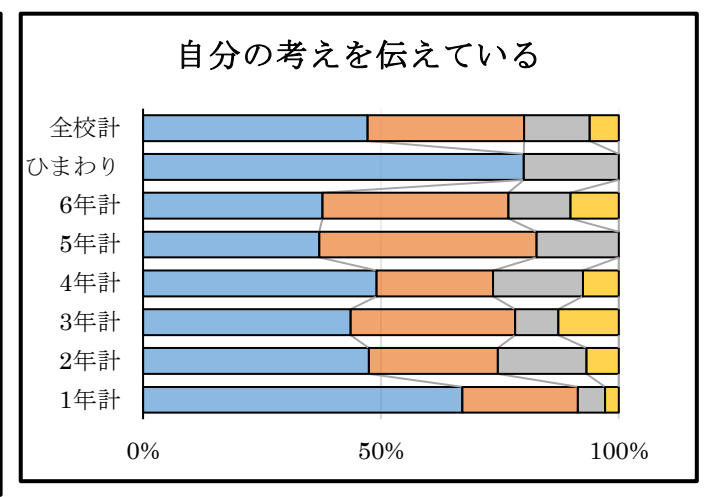
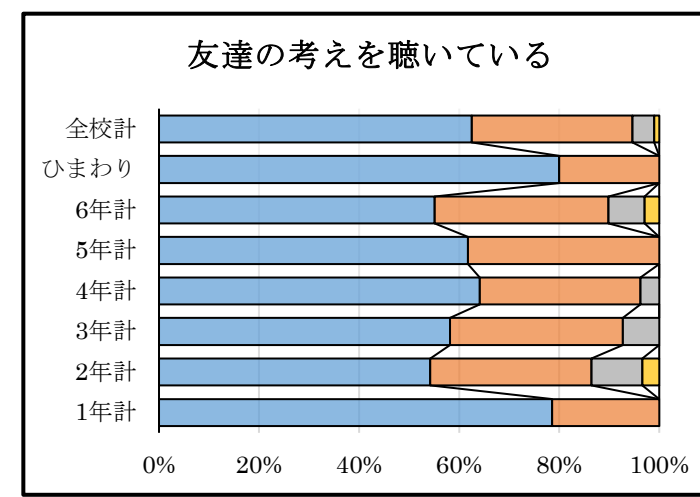
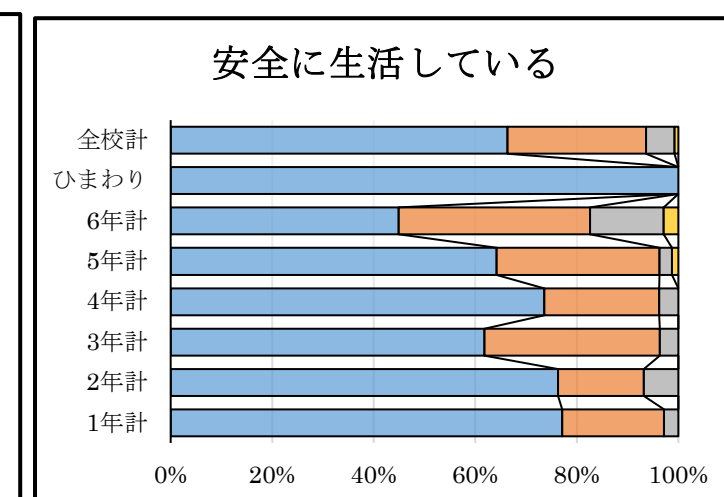
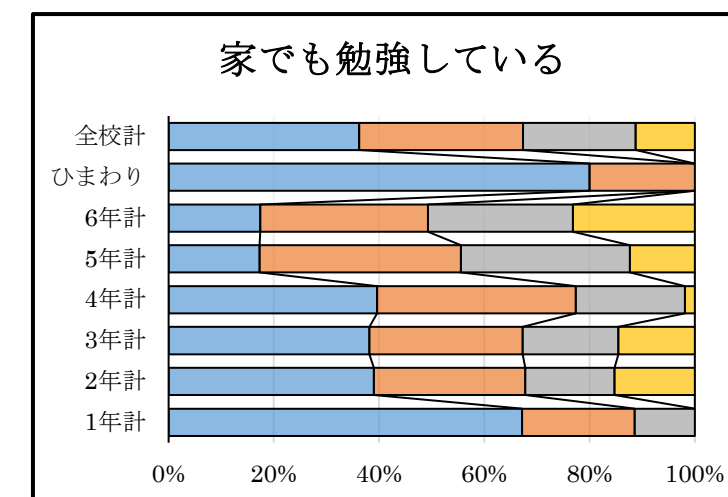
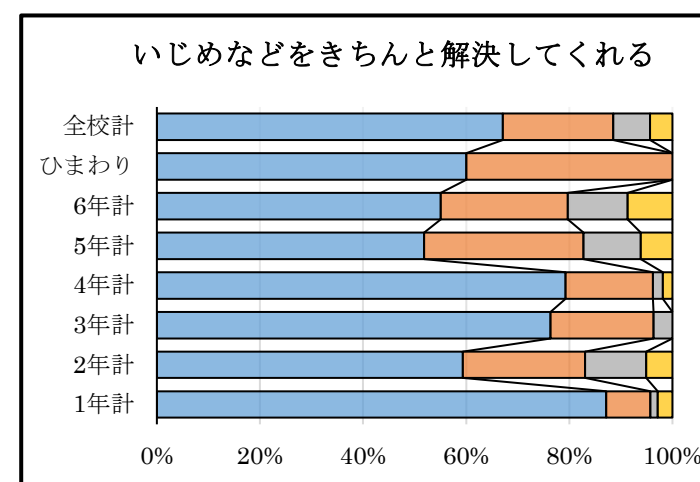
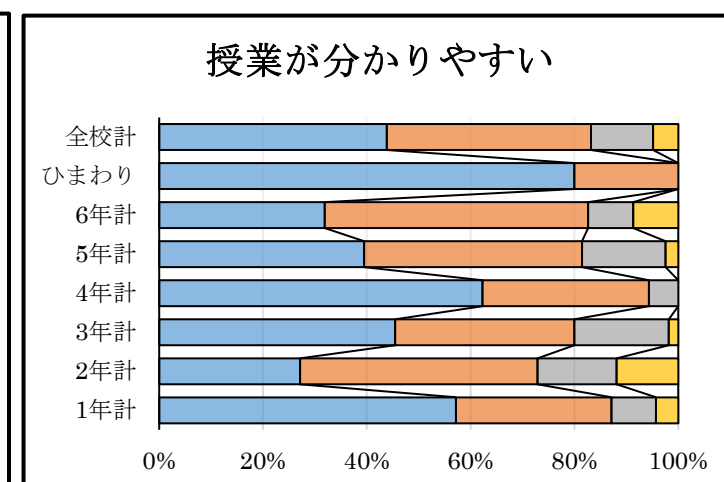
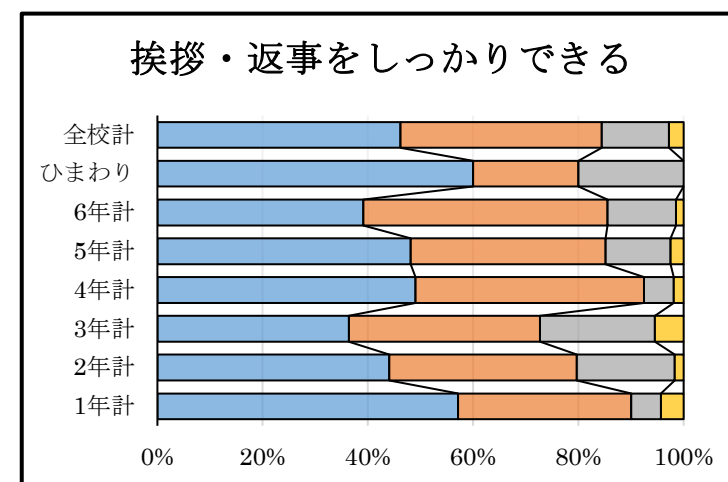
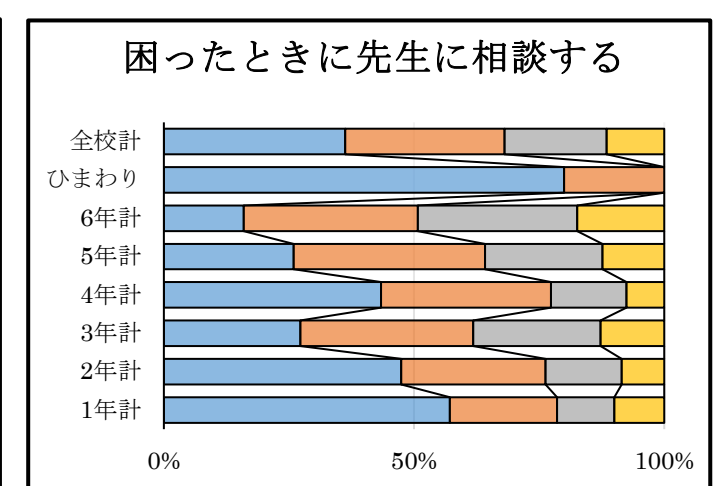
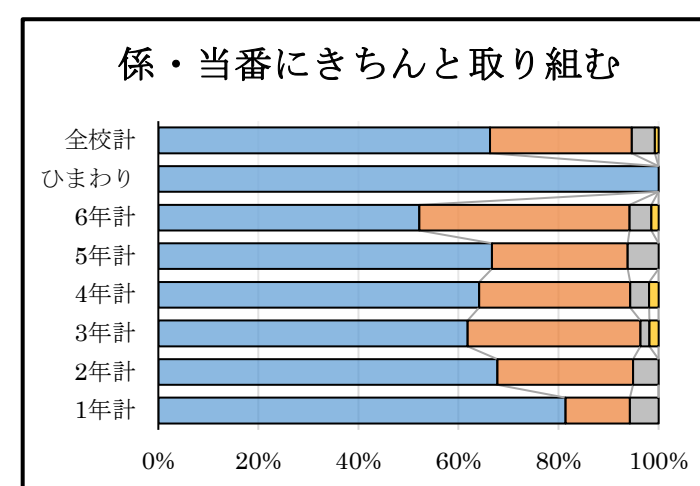
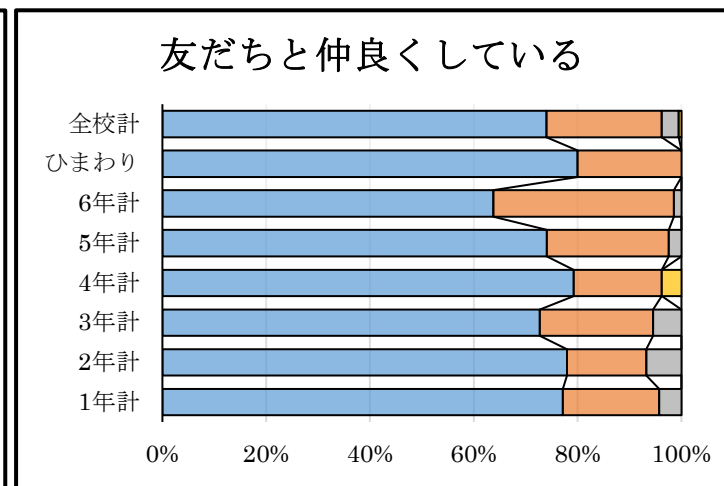
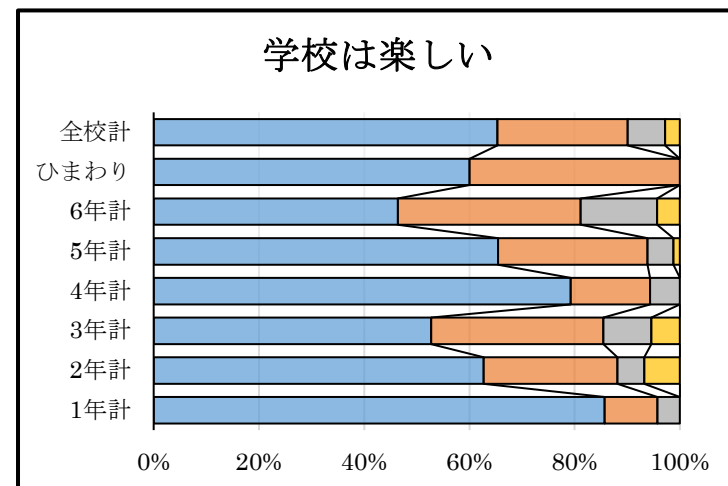


令和7年度学校評価アンケート

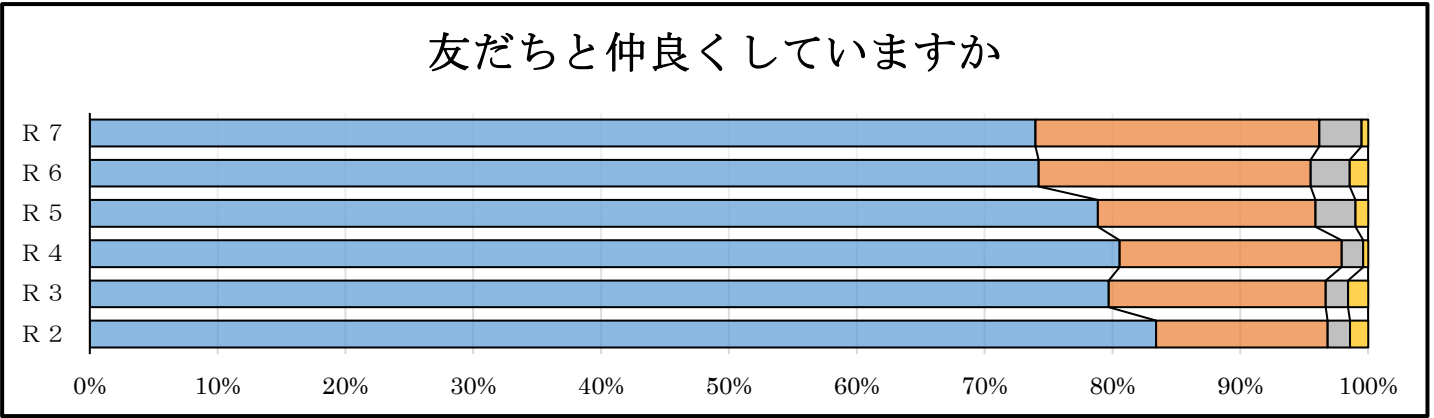
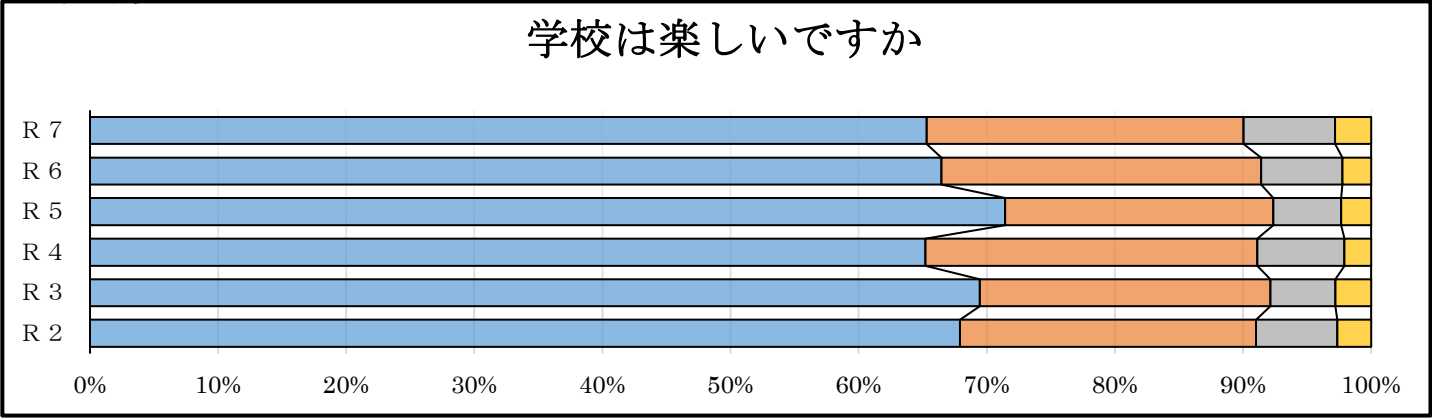
集計結果

■ そう思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない

I 児童アンケート結果

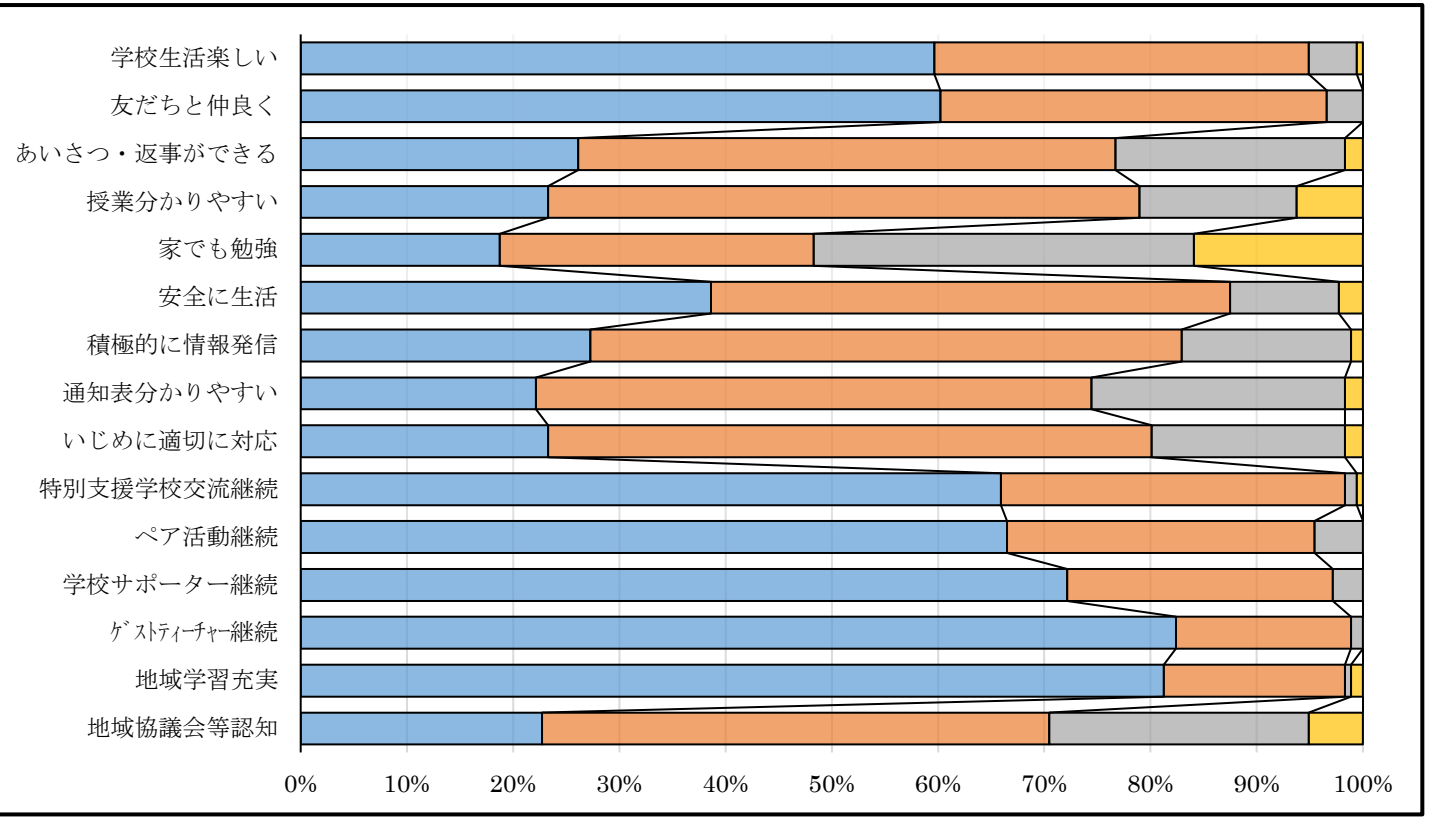


Ⅱ 経年変化（児童）

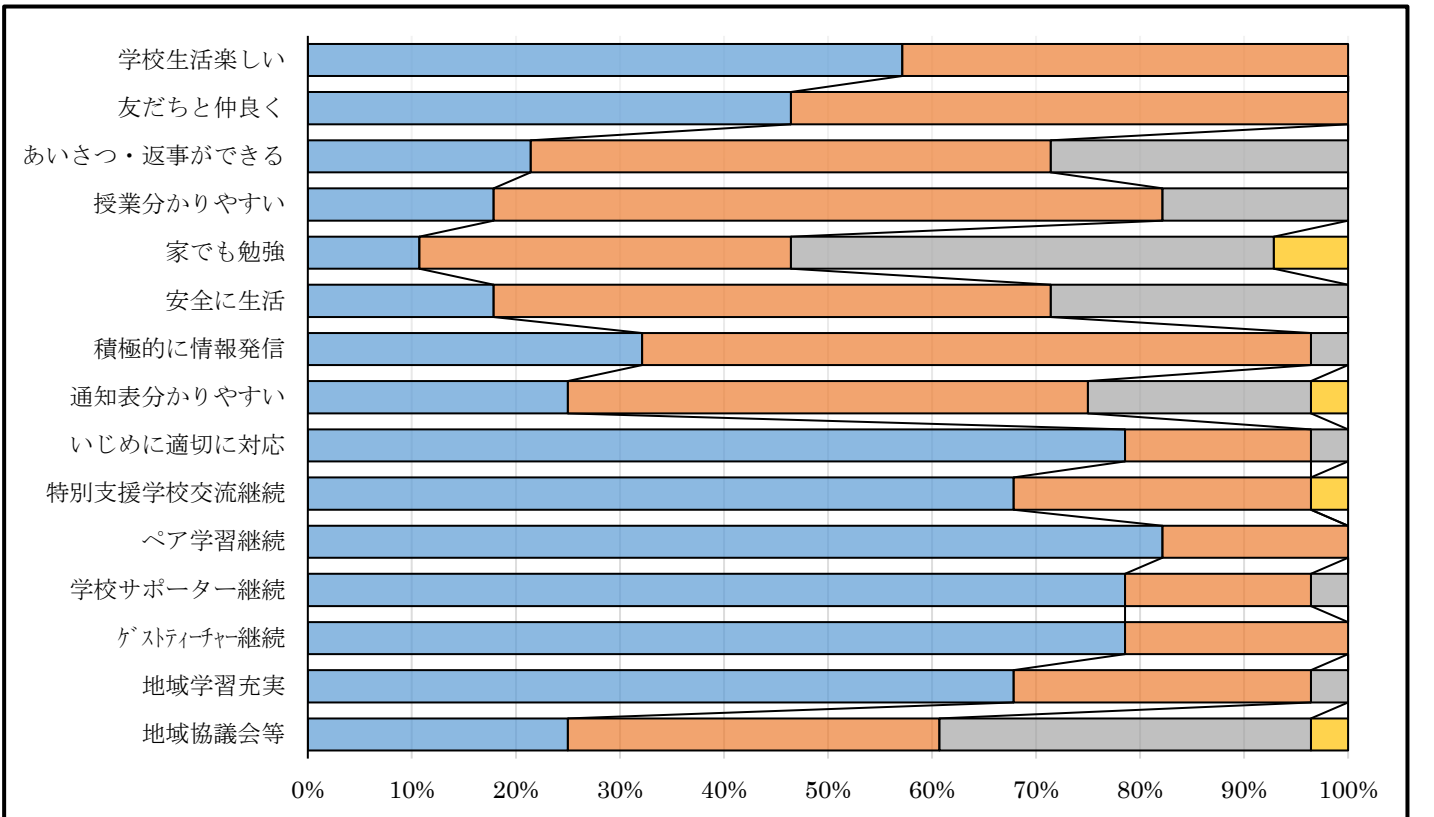


Ⅲ 保護者・教職員アンケート結果

＜保護者アンケート結果＞

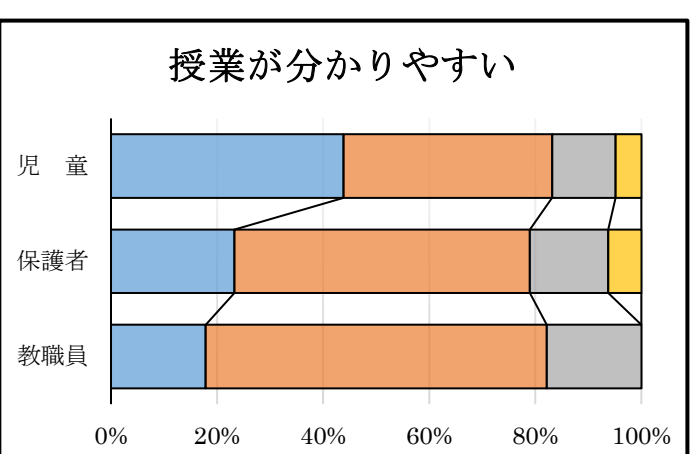
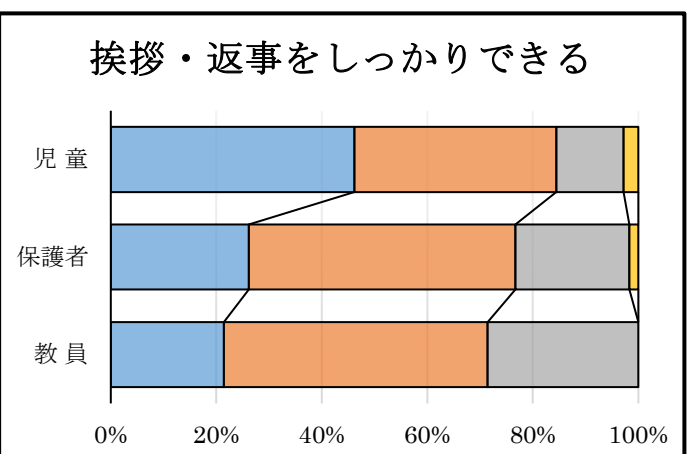
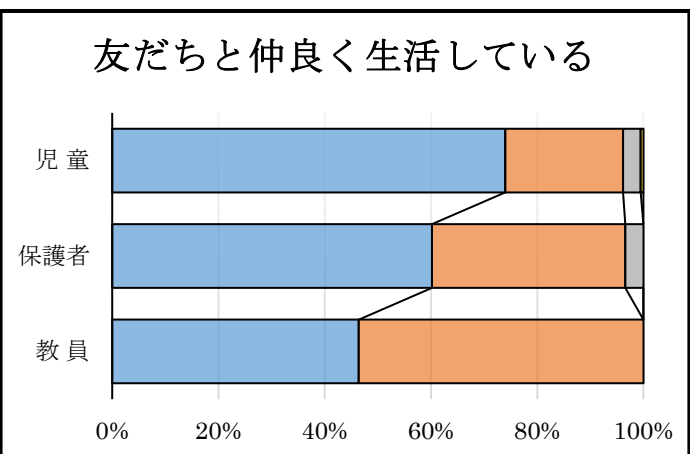
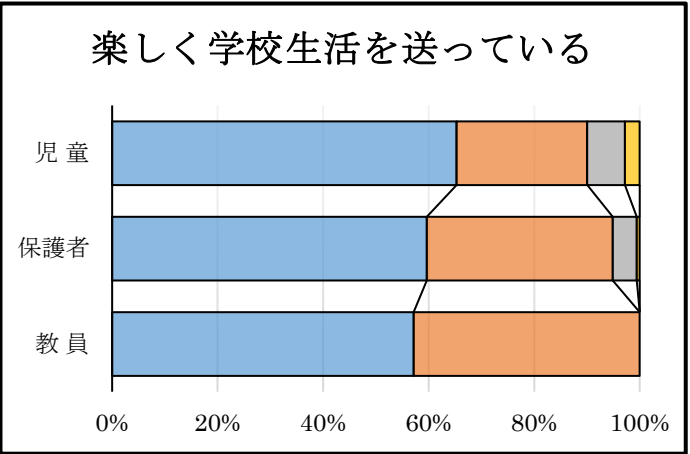


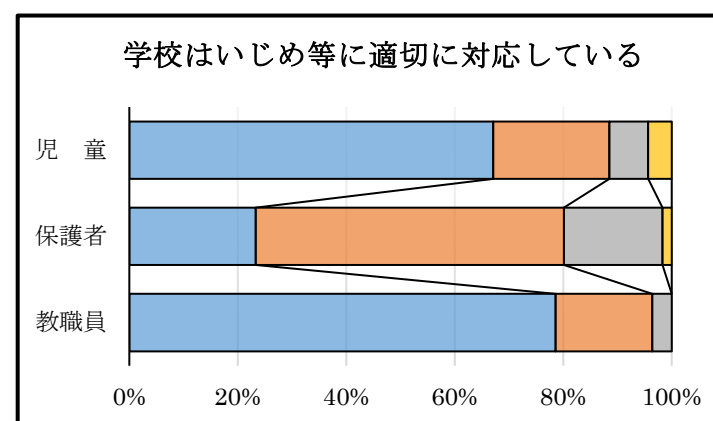
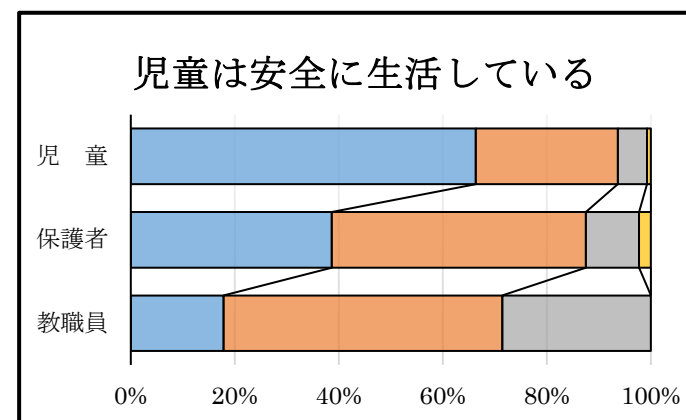
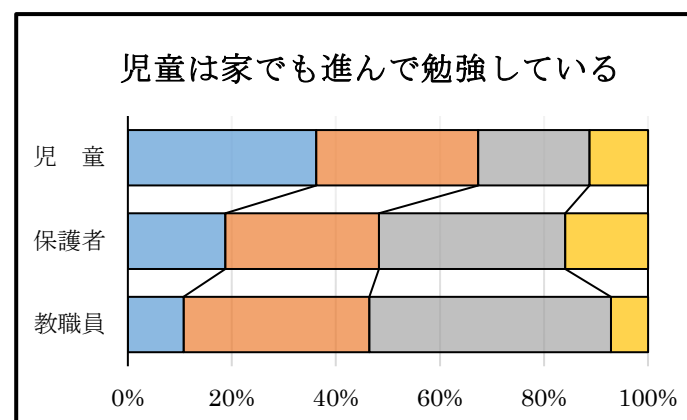
＜教職員アンケート結果＞



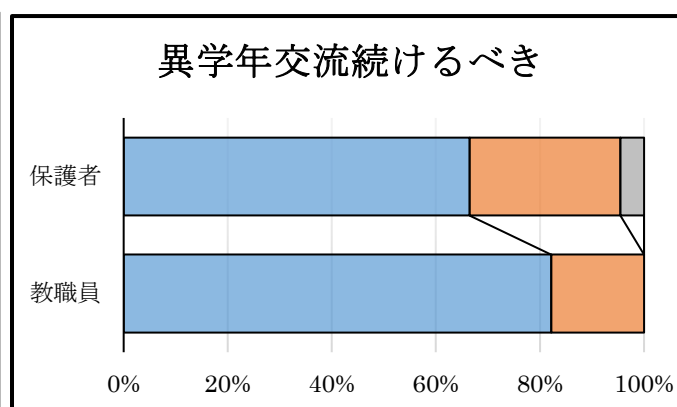
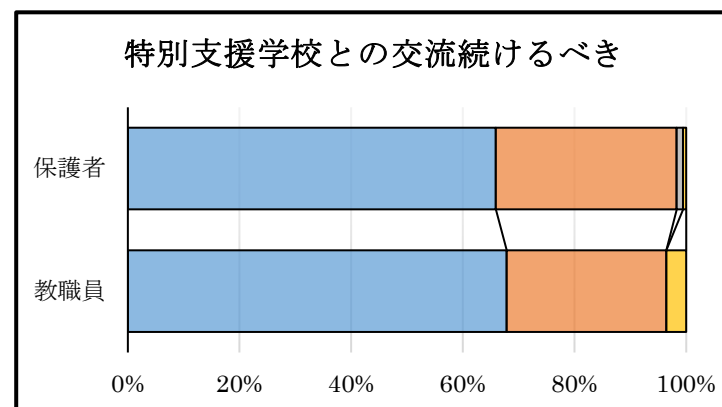
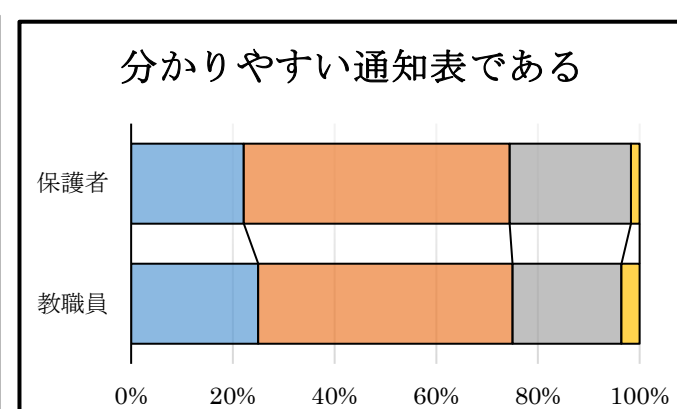
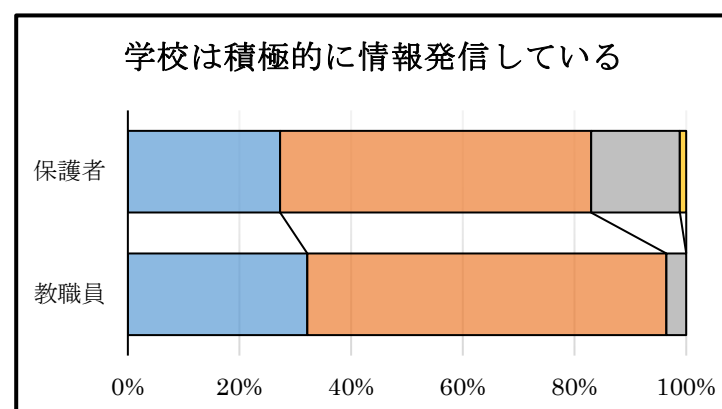
Ⅳ 児童・保護者・教職員アンケート結果三者比較

1





V 保護者・教職員アンケート結果二者比較



【学校評価アンケートの結果から】

1 児童アンケートの傾向

- 全体的に肯定的な回答が多い。ただし「学校は楽しくない」と感じている児童が39名、「友だちと仲よくできない」と感じている児童が15名いる。
- 「あいさつ・返事ができる」「授業が分かりやすい」「家でも勉強している」という設問に対しては、否定的回答が多い。日常的な生活・学習の様子に目を配り、児童一人一人の能動的取組につながるよう、適切に支援していく必要がある。
- 「困ったときに先生に相談する」という設問に対しては、否定的な回答が多い。「困ったときに先生に相談しない」と回答している児童が125名いる。これらの児童には相談相手がいるのか、困ったときにどうしていくのか等、積極的に支援していく必要がある。
- 多くの児童は肯定的ではあるが、経年変化を見ると、「友だちと仲よくしていますか」という設問に対しては、回答が肯定的であるのに比べ、「学校は楽しいですか」という設問に対しては、否定的回答が増加傾向にある。関わり合う対人関係の中で、他者への想像力や理解が後回しになって起きるトラブルが、学年を問わず見られる。児童一人一人に寄り添うとともに、認め合い高め合う学級・学年づくり、ともに学びともに成長する学校づくりをしていく。

2 保護者アンケートの傾向

- 多くの保護者が、児童は楽しく学校生活を送り、友だちと仲よくできていると感じている。
- 「あいさつ・返事ができる」「家でも勉強している」「授業が分かりやすい」「通知表が分かりやすい」については、他の設問に比べて否定的な回答が多い。

3 教職員アンケートの傾向

- 多くの教職員が、児童は楽しく学校生活を送り、友だちと仲よくできていると感じている。
- 「あいさつ・返事ができる」「家でも勉強している」「安全に生活している」「通知表が分かりやすい」については、他の設問に比べて否定的な回答が多い。

